

住民のための の市政を！！

ごうつ民報

日本共産党江津市委員会
 電話 52-2633
 FAX 52-7244
 NO. 2441
 2021年3月14日

江津市市議会3月定例会

市長提案の2020年度補正予算案

8日、開会中の市議会3月定例会へ、山下修市長がこれまでの予算から5億5640万円を減額する一般会計補正予算案を提案しました。

ふるさとづくり寄付金が7000万円増

ふるさとづくり寄付金（ふるさと納税）の受け皿となる『元気！勇気！感動！ごうつふるさと基金』への積み立てとして、7000万円が増額されています。ふるさとづくり寄付金の実績見込みによる計上であり、20年度での寄付の総額は1億5000万円に上る見込みとなっています。また、これにあわせて、ふるさとづくり寄付金についての調達・送付・広報・決済・事務の経費として、ふるさとづくり寄付金事業に3754万円を計上しています。

20年度での事業実績により減額

一方で、コロナ禍の影響を受けた事業として、ピクニックラン桜江（4

48万円）・江の川祭り（460万円）・パレット（166万円）が中止となっており、合計で1074万円が減額となっています。

また、新型コロナウイルス感染症対策費では、中小企業等持続化応援金や商業サー

江津市議会でルール変更 『申合せ事項』改定で なにが変わった？

江津市議会では、独自の取り決めである『申合せ事項』の改定について、昨年より議論しており、3月定例会から新たなルールが適用されています。

議長の留任表明が 議論の発端に

改定議論の発端は、従来の『申合せ事項』で2年となっていた任期を超えて、森脇悦朗議長が留任を表明したことでした。

一時は自民党系会派が分裂し、議長不信任決議案を提出する動きもあり

ビジネス感染症対応支援事業費補助金で計上したものの、申請がなかった分として6270万円が減額となっています。

このほかに、各事業での年間の実績をもとに、これまでの予算で計上した事業費を多数減額しており、結果として補正予算案は5億5640万円の減額となっています。

議長・副議長 任期は4年に

議長・副議長の任期についての『申合せ事項』の規定の問題は、地方自治法に関わるものです。

地方議会について定められている地方自治法では、議長・副議長の任期を4年としています。そのため、条例ですらない『申合せ事項』が根拠法を上回って任期を制限していません。

議会運営委員会での議論の結果、任期を2年に制限していた文言が削除され、地方自治法に則って任期は4年となりました。なお、自己都合などによる辞職を妨げるものではありません。

請願の紹介議員の条件が緩和

市民が議会に議決を求める場合、請願・陳情することができます。

江津市議会では、請願と陳情の扱いに大きな差はありませんが、請願の場合は紹介議員が必要となります。江津市議会へ請願・陳情が提出された

場合、その内容・分野によって2つある常任委員会（総務民生委員会と建設経済委員会）のどちらかで審査されることとなります。

議長をはじめ各市議は、2つの常任委員会のどちらかに所属していますが、従来の『申合せ事項』では、所属する常任委員会を審査される請願の紹介議員にはなれないとの規定がありました。しかし、この規定は日本国憲法が保障する国民の請願権を阻害する可能性があります。

そういった議論を経て、この規定も削除され、今後は常任委員会の所属によらず、紹介議員となることのできるようになりました。ただ、請願に賛同する・しないは、各市議の判断であり、賛同できない請願でも、必ず紹介議員になるというものではありません。

郵送の陳情も内容次第で審査の対象に

一方、市議会へ提出される陳情には郵送で届くものもあり、これまでの『申合せ事項』では、議

長・議会事務局へ直接持参したもの以外は、議題にはしないとされ、各市民議に届いたことが周知されるだけでした。しかし、今回の改定により、議長が審査に適用と判断し、議会運営委員会が認めた場合は、郵送の陳情も審査されることとなりました。

一般質問での「検討する」との答弁

『申合せ事項』と平行して、一般質問への答弁についても議論が行われ、3月定例会からは、市長・市執行部による「検討する」などの以後の取り組みを示唆する答弁については、半年後に議長へ文書で経過を報告させることも決まりました。

悩み・困りごと
ご相談ください

森川よしひで
090-7379-1554
多田伸治
090-6014-2259

『非核平和宣言都市』『男女共同参画宣言都市』 新日本婦人の会が陳情した 「新庁舎への常設看板の設置」の審査

5月6日開庁予定の新庁舎へ、『非核平和宣言都市』『男女共同参画宣言都市』の常設看板の設置を求め、新日本婦人の会江津支部が市議会へ陳情。10日の総務民生委員会で審査され、会員が傍聴しました。

「わからない」との答 弁が続出

委員会審査の冒頭、総務課長が2つの宣言について、「新庁舎ではLED掲示板で表示したい。あわせてホー

ムページでも情報発信したい」と説明しました。

日本共産党江津市議団の森川よしひで市議が、現庁舎前の看板が設置された経緯や新庁舎に設置する費用について質すと、「非核平和の看板は議会決議を受け

1987年に設置した。新設の場合の費用は不明」と

し、新政クラブの永岡静馬市議からの当時の費用を問う質疑には「費用は当時の資料がないのでわからない」と答弁。新政クラブの坂手洋介市議の「設置には占有地が必要で、庁舎正面には災害対応の受入場所もいる。建設中で市民の動線がわからず交差点もあるが、設置が可能なか」との質疑には、「災害時を含め、市民の動線や交通安全を考えると、庁舎が完成しないとわからない」と答弁しました。

の借家にいることが判り、4月7日に救援物資を郵便小包で送りましたが、11日に浜田郵便局から「石巻市内は取り扱い停止です」と返されました。テレビでクローンコ便が奔走しているのを見て、4月13日にクロネ

コ江津営業所へ相談し「時間がかかりますが」と引き受けてもらい、4月18日には夫人から「届きました」と連絡がありました。手紙も小包も届かないほど郵便機能が混乱した非常事態となっていることを知

質疑に対して、市執行部は「わからない」との答弁を連発しました。市長提案の議案ではない陳情とはいえ、過去の経緯について、想定可能な答弁さえ用意していないのは問題です。また、2カ月足らずで開庁する新庁舎で災害時の動線が不明なのは、運用に不安を抱かざるをえません。

委員会での採決 賛成は共産党のみ

討論では、坂手市議が「新庁舎は建設中で、動線

確保のためにも、現時点での設置は反対」と反対討論

森川よしひで市議は「現時点ではわからないではなく、市の指針として一番最初に設置場所を確保すべき」と賛成討論を行いました。委員会の採決では、賛成は森川よしひで市議のみで、残る6人全員が反対し、11日の本会議では「不採択とすべきもの」として、採決されることとなりました。

傍聴した新日本婦人の会の会員に感想を聞くとき：

◆看板は市民の誇りでありシンボル。交通安全には配慮が必要だと思うけど、新庁舎でも目に留まりやすい場所に設置してほしい。
◆「今は建設中だから現段階では反対」と言われたので、時期がきたら考えてもらえるということだね。
◆宣言は世界につながるもの。ジェンダー平等も国で決めていることなので、市民に改めて啓発していく姿勢を示してほしい。
◆現庁舎にある良いものは受け継いでもらいたい。
◆こんなに討論が

あつけないものだと思わなかった。それにしても当時の議員さんたちは先見性があり、党派を超えてすごい決議をされたと改めて感謝感心。

◆看板の存在は一目で啓発の力があり、設置してほしい。ホームページと言われなくても、パソコン・スマホがないと見ることはできない。
◆旅行先のまちであの看板に出会うと、『ここもそうなんだ』と励まされ、旅行がいつそう楽しいものになった経験がある。
◆委員会審査はCATVで放送されないの、審査の様子を仲間には是非伝えたい。引き続き設置が叶うよう運動を続けたい。

◆1月に核兵器禁止条約が発効し、3月11日は福島原発事故から10年の節目です。また、森元首相をはじめとした女性蔑視発言が、大問題となったばかりです。市の指針としての『非核平和宣言』『男女共同参画宣言』をどう扱うか、市執行部・市議会の認識が問われます。

お悔やみ申しあげます
(敬称略)

3日 藤田好男 (86) 桜江町川越
6日 富金原雪江 (89) 敬川町

私の東日本大震災

今年3月11日は、東日本大震災から10年目にあたり、新聞・テレビで様々に特集されています。震災と私の個人的な経験を書き記しておきたいと思います。

地震と津波で5500人の死者・行方不明者を出した宮城県石巻市は、同級生の松田君が漁船修理会社を30代で起業し、地元出身の夫人と力を合わせて経営して来た場所です。私も幾度か訪れた港町でした。彼は自宅新築時に石州瓦を使う計画でしたが、地震多発地帯のため、危険と判断した市に止められました。そして、震災前に病気で亡くな

中学校へ避難したことが判明。速達で見舞状を送り、協力・援助を申し出ました。5月になって配達不能(避難所から退去)と付箋がついて戻ってきました。これに前後して、4月5日に夫人からの電話で親戚

コ江津営業所へ相談し「時間がかかりますが」と引き受けてもらい、4月18日には夫人から「届きました」と連絡がありました。手紙も小包も届かないほど郵便機能が混乱した非常事態となっていることを知

石巻生まれの松田夫人で、津波は初体験でしたが、「早く逃げよう」と自転車で避難場所へ向かったことが幸いし難を逃れました。自動車でも避難し渋滞に巻き込まれ、亡くなった人が多かったと話されていました。

津波に襲われた自宅は家財を流され、押し寄せたゴミに呆然としましたが、奇跡的に仏壇が残され「主人の霊魂が宿っていた」と涙が止まらなかったそうです。その手紙には「津波は逃げることができませんでした。文責・佐々木忠且